

激励のこ と ば

二十歳のつどいにご参加の皆様、本日はおめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子様を立派に育ててこられたご家族の皆様にも重ねてお慶び申し上げます。門出を祝う記念すべき素敵な日に、こうして壇上に立たせて頂けたことをとても光栄に思っております。

私も十八年前、この大田市で成人式を迎えましたが、友人たちと久しぶりに再会できたことが、とても楽しい思い出として残っています。

私は、大田高校を卒業後、東京の大学に進学し、農業である家業を継ぐため帰省してから二十年が経ちました。この二十年は多くのことに挑戦してきました。それも私にとって信頼できるパートナーでもあり、一番のライバルでもあった父がそばにいてくれたからと思っております。そんな父は昨年八月に享年六十七歳で亡くなってしまい、悲しく、寂しい日々を過ごしていましたが、この故郷で多くの青年活動を共にする仲間たちが支えてくれました。皆様の中にはお仕事されている人、学業に励んでいる人などさまざまなと思いますが、これから多くの喜怒哀楽が待ち受けています。ですが、何事にも立ち向かい挑戦していった欲しいと思います。挑戦することを諦めなければ、人は成長し、多くの人の支えになることができる人財になれると僕は信じています。失敗しても、次失敗しないよう、勉強し、足りない知識や経験を得ることで、それが自分の成長に繋がります。是非、皆様一人ひとりがいなくその青年の情熱を、多くの挑戦に注いでいたださい。その姿勢が人の心を動かし、僕を支えてくれたような仲間が増え、多くのものやことを成し遂げていくのです。

私はこの挑戦する姿勢を父から教わりました。そんな父に生前の最後「今まで育ててくれてありがとう」と言えたことで、私の受け取った恩

は、必ず後世や次世代につなぐ。という使命感が湧き今日この日を迎えました。皆様にも今日という素晴らしい晴れ舞台に送り出してくれたご家族がおられると思います。是非、一言感謝の思いを伝えて欲しいと思います。そして今まで受け取った恩を、恩返しするのではなく、友人や後輩など多くの人に恩を送ることです。この恩の連鎖こそが、一人ひとりの未来の幸せに繋がることだと思っています。是非、私たちと一緒に「挑戦」と「恩送り」を考動し、より良い明日を目指していきましょう。そしていつの日か、私たちの郷土であるこの大田で、一人でも多くの方が私たちと共に青年活動できる日がくることを願っております。

最後になりますが、皆様の今後ますますのご活躍を記念いたしまして、私からの激励の言葉とさせて頂きます。本日は誠におめでとうございます。

令和七年一月四日

福間 裕紀